

阿部ワールドにお付き合いいただいた学生諸君に感謝

今年度まで唯一引き受けていた学校の非常勤講師の授業を今週で終えた。

この学校に今年度で非常勤講師辞任を授業開始時に伝えたが、「阿部先生の話が学生に、ぜひ、ぜひ聴かせたい！」と強く留意してくれるのは、たいへん有り難く、嬉しいのだが…。

授業の教科書として自費出版の愚書を使っているので来年度も引き受けるとなると、残部数では来年度の学生数に足りないので増刷しなくてはならない。

もし増刷するとしたら、愚書は「改訂版：重い障害のある子どもへの援助のために」と銘打ってるだけに、最近の教育界のインクルージョン、児童福祉法改定、iPS 細胞、障害者総合支援法、血液検査による出生前診断、DNA 配列解読、等々の側面も追加して触れたいし、細かい箇所でも書き直したい部分がある。

増刷するなら大幅な再改訂版になりそうで、初版の30年前、改訂版の10年前と比べ、プロ野球選手の引退時の「気力、体力の限界を感じ…」を真似るつもりはないが、大幅に書き直したり編集し直したりする気力、体力が、もうこの歳ではやはりどこか萎えてきている自分に気づいているし、なにぶん不器用な性格で、自分なりに納得できずに従来通りでの単なる増刷はしたくない。

しかも、これらの側面については HP「雑学」で既に記事として発信し、記事のバックナンバーは HP「雑学 BN」に転記・保存しているし、改めて愚書に追加・記載するまでもないか…と思うところもあり、何事にも身の引き際のタイミングというものがあるだろうと思っている。

それはさておき、振り返れば、12年前のリタイヤ後、5校の学校で8教科の非常勤講師を勤めさせていただき、本当に恵まれた10数年だった。

各学校の非常勤講師に推薦・紹介いただいた先生方、お世話いただいた各学校の先生方、阿部ワールド(?)の話にお付き合いいただいたたくさんの学生諸君に、ここに改めて感謝申し上げたい。

歳のせいで涙もろくなっているのか、最近の授業では係わった子どもたちの事例を話していると、つい思い出して胸にこみ上げてくる瞬間も多くなったが、何よりもこうした非常勤講師の機会を与えてくれたのは、障害のある子どもたちとそのご家族との長年の係わりがあってこそであり、心から感謝したい。